



源氏物語巻五  
五

413
976
5



源語忍草卷之五

目錄

子蕨

車尾

精於

厚浮橋

宿木

浮木

手習

門 4 13  
葉 976  
巻 5

ヤナヒ

大正十五年二月  
花房仙文氏書

仲は君を姉君のついで多しあつてもうおまの光成はな  
はも花香のまをまも同くおふひりうてこそ耐あ  
ついでくおついでてふづをねづくとと伊父ハ内宮の伊別ふ  
ほまをておせだ界一あねきねもめづりあま奈おまあ  
まもくくしありの阿闍梨のまことより蔵去業と筑よひて  
まもくく阿闍梨

君まをておまこのまをついでおまおまおまおまおま  
伊父ハ内宮の君

伊父ハ内宮の君

おろろの大君を我そのほにせいでんわくゆかくえきくひらききり悲し  
まの公作るをも誰ありつくとあり後て白も入るりてちあ  
やうにゆめえいもくふ白もえきり後中其若二条院へ  
迎へんとす成後里とあふはとろれともいにけりたわがあや  
海ちのやうに姉若と眼てり道々もいりゆりもにたとて候ひ  
まのり中若のやほとあくの目出んもゆつたとあやしくあひ  
指くごめつてまきあづむほにもあひねはんくともめて、まきたま  
としてそ持どももあまのりかゆるよりりしは後身して時日あひ海り  
たつとほとほるまの目まづめくとも居入るしてはまも入るり  
我こそゆもに姉若候へもにむつんと思ひかど者しすまの  
思ひ出て指ゆつとく思ひ中若の御して備へるも山原の川ふあひの  
わつとをもおがえありゆとくへもとほふがさへまのり出せ業に  
對面あつともあつたわつとせまふ二条院の何某の面とひとあつて侍目だ  
其申候の備へく用のするものあつと念はよ思ひえまふ申其若の  
そのおもふこゝ急姉若ようく思多つて成公めつてわくよ糸のりあふ見  
新あけつると思ふよくや一所増しでもひあふ一毎の姉若のあけれとも  
氏うぢは成々れたば成の江依思ひよけん字活よ後づまおしだめゆる  
そやう成と志はよ思ひえまふがまをとも海か落きうそろに嬉ね  
せんも入はひくおしだ神のあひね中の若も姉若の手道具をど  
あふは舞の尾よとせめく人よの姉つておのひもしてまげともふ



けして、序其後、おせぬ、二、三、の肉、二、三、は、ま、け、ま、せ、終、ひ、て、  
先、以、兼、成、ゆ、も、ん、も、れ、け、と、れ、多、く、す、目、下、お、て、著、し、ま、ふ、は、る、

世のつひの世ひも、咲る花あゝが、おのま、た、た、お、て、し、海、一、を、

### 今上御制衣

手、お、は、じ、た、枝、所、室、の、兼、成、目、で、お、う、の、ま、た、お、せ、終、ひ、も、あ、る、が、  
下、お、ゆ、の、序、聲、は、と、り、て、お、ら、す、中、に、つ、け、て、お、の、あ、ら、せ、ぬ、か、お、  
と、お、ら、す、の、面、目、お、し、ど、お、の、肉、あ、ら、け、し、と、お、ら、せ、ぬ、か、お、ら、す、の、  
道、お、す、す、も、け、一、成、中、治、の、姫、君、を、お、し、目、で、お、く、よ、め、つ、の、あ、て、  
ま、は、ら、ゆ、お、入、一、姉、君、を、お、ら、す、く、お、し、あ、つ、ま、お、ら、す、お、ら、す、の、  
ら、つ、と、お、し、お、し、お、し、た、し、お、し、お、ら、す、ら、つ、と、お、ら、す、お、ら、す、の、

け、目、お、ら、す、の、兼、成、目、で、お、う、の、ま、た、お、せ、終、ひ、も、あ、る、が、  
お、ら、す、の、面、目、お、し、ど、お、の、肉、あ、ら、け、し、と、お、ら、せ、ぬ、か、お、  
と、お、ら、す、の、序、聲、は、と、り、て、お、ら、す、中、に、つ、け、て、お、の、あ、ら、  
せ、ぬ、か、お、ら、す、の、道、お、す、す、も、け、一、成、中、治、の、姫、君、を、  
お、し、目、で、お、く、よ、め、つ、の、あ、て、ま、は、ら、ゆ、お、入、一、姉、君、  
を、お、ら、す、く、お、し、あ、つ、ま、お、ら、す、お、ら、す、の、ら、つ、と、  
お、し、お、し、お、し、た、し、お、し、お、ら、す、ら、つ、と、お、ら、す、  
お、ら、す、の、け、目、お、ら、す、の、兼、成、目、で、お、う、の、ま、た、お、  
せ、終、ひ、も、あ、る、が、下、お、ゆ、の、序、聲、は、と、り、て、お、ら、  
す、中、に、つ、け、て、お、の、あ、ら、せ、ぬ、か、お、ら、す、の、と、  
お、ら、す、の、面、目、お、し、ど、お、の、肉、あ、ら、け、し、と、お、  
ら、せ、ぬ、か、お、ら、す、の、と、お、ら、す、の、序、聲、は、と、り、  
て、お、ら、す、中、に、つ、け、て、お、の、あ、ら、せ、ぬ、か、お、  
ら、す、の、道、お、す、す、も、け、一、成、中、治、の、姫、君、を、  
お、し、目、で、お、く、よ、め、つ、の、あ、て、ま、は、ら、ゆ、  
お、入、一、姉、君、を、お、ら、す、く、お、し、あ、つ、ま、  
お、ら、す、お、ら、す、の、ら、つ、と、お、し、お、し、  
お、し、た、し、お、し、お、ら、す、ら、つ、と、  
お、ら、す、お、ら、す、の、













何れも... 太刀... 母...  
 のまを...  
 う...  
 昨日...  
 事也...  
 つ...  
 後...  
 節...  
 最...  
 百...  
 巻...  
 以...  
 何...  
 且...  
 わ...  
 片...  
 の...  
 ね...  
 ね...  
 ね...  
 ね...

あつたまや

つらねと浮舟を序流下たるに中をありて継父と名陸守  
<sup>せきまや</sup>ひまを領ありて下をわが聲あがりけりせしむるもひくとおがす  
<sup>しん</sup>をあるはけりしてよく姉君は似れが思ひあつて海に  
<sup>あ</sup>男一人して志はよめえあふ母君のわが教ありぬきけり何ふ  
<sup>ま</sup>右大将の位なりけり娘をやん言れ人の妻とせんよる  
<sup>ま</sup>似合ふもの成聲けりて不業ふせんこそ娘のきもたはも  
<sup>ま</sup>よくつらねとわが思ひあつてのわがきもたはもいふおと  
<sup>ら</sup>名陸守のつらねと成上りよよくつらね待方の名をよめてお田来

野人あるその也物のよれありて思ひあつてねぶふのきもたは  
<sup>ま</sup>れどもよくつらねと道具とてみを我むるのうれ舟よとせ  
<sup>ま</sup>けるせんよとわ娘二人ありて成が少納言後夜書とつらねのき  
<sup>ま</sup>聲にきて序付ありあつてはも娘は目までこれの十四あり  
<sup>ま</sup>船目大ねとくもれし先浮舟を何とつけんと思ひあつて  
<sup>ま</sup>よるにひまを中にな道のおねと名殿上人のつらねを  
<sup>ま</sup>よくつらねと名をよめて八月わると思ひあつて少將浮舟ありて  
<sup>ま</sup>ひまを成書出でて中をよびてつらねと名をよめて名陸守  
<sup>ま</sup>と名をよれ人ありて後見ふきのまると思ひてよくつらねに  
<sup>ま</sup>らんと名をよめつらねが本娘にておあく女とてつらねの



おもひながら母のあまのこにむすこをいぬわがもはあめいん  
 としてめれと二人あて娘を鑑つらひなまあまどめをいしておぼさ文  
 そそめいづきなりおの方浮舟をついで中若の由ありて  
 足舟であつ海りくけきもいし伊佐長おま若の由ありて  
 しておとつ海人をいふお家娘の浮舟をめぐりにぬまうか  
 にはもぬまふおおふをいへりてめぐりておとつお  
 うもやまうかお母若二三百ありて文をいしお四娘の白ふの  
 お素也をいふお白ふわてせあ少成りておおま若の  
 海りのたる四位五位まうく四娘しておま若の海づをいしお我  
 孫子の式部の也お林平中よりお伊佐おまのいし何れも  
 近うもえまのいしおねをいしおはもいしおの海をいし  
 ともおなりお若をいしおまをいしおまをいし中若と由物  
 といしお伊佐をいしおまをいしおまをいしおまをいし  
 お若おまおと海りおひしておま伊佐をいしおおまをいし  
 肉とまのあまおの方中若のまおまをいしお白ふの伊佐海  
 けつちんおめおまをいしお田舎をいしおまをいしおまをいし  
 浮舟をいしおまをいしおまをいしおまをいしおまをいし  
 まの海りおまをいしおまをいしおまをいしおまをいし  
 けつちんおまをいしおまをいしおまをいしおまをいし  
 伊佐おまをいしおまをいしおまをいしおまをいし

げあり。中村君と。例の姉君のふらをも強自そめつるに於ては  
 水の方をておく思ふや。水津<sup>つら</sup>居居るふらうでうおとく思ひ  
 かん。げふ七夕の年に一衣の装ひにせも。かゝる人をもて聲に  
 玉海よりけし。うに舟を少ねく。おのふらふ。うに。かゝる  
 なと思ひぬ。ぬ。若。ほむ。う。け。目。下。浮。舟。を。お。び。お。て。母。君。の  
 御うね。つ。う。白。ま。わ。り。の。な。中。村。君。の。お。ぐ。う。海。へ。出。ゆ  
 かのふらふ。は。若。君。を。寐。ま。り。の。白。う。つ。ま。り。に。て。か。か。り。う。を  
 む。い。何。の。お。せ。あ。り。中。村。君。の。障。子。の。か。も。く。明。け。り。何。を。も  
 彩。く。お。ご。も。ま。ん。ぶ。ま。ん。に。お。い。あ。の。た。る。女。の。神。台。見。ゆ。か。な。  
 今。ま。り。の。ま。は。の。人。か。と。思。へ。け。り。ひ。あ。る。浮。舟。を。白。ま。と。も  
 ち。う。に。あ。ふ。く。う。く。う。と。思。へ。あ。げ。お。る。や。う。だ。い。ひ。と。う。け。く。う。  
 かね。が。傍。の。ま。う。に。舟。年。を。見。通。う。が。う。く。て。そ。か。た。け。り。う。ま  
 誰。く。も。若。の。ま。と。と。と。お。り。あ。ら。ば。ま。れ。と。人。者。乃。は。ま。を  
 あ。や。う。と。て。障。子。の。め。て。ひ。て。見。れ。ば。白。ま。也。障。子。障。子。あ。ら。ま。  
 若。と。お。り。あ。ら。ま。と。思。へ。れ。て。引。越。し。と。す。る。浅。津。が。な。れ。女。と  
 み。つ。て。あ。の。も。が。ま。成。引。つ。あり。終。つ。り。中。君。も。笑。あ。ひ。て。つ。た  
 俺。う。う。思。つ。ん。と。笑。止。ま。ら。ま。と。若。の。は。ら。ま。ま。け。と。と。ま。り。ん  
 若。あ。ら。ま。う。に。舟。を。お。れ。と。せ。ん。か。り。う。そ。肉。店。の。ま。ま。あ。ら  
 若。う。い。と。う。て。肉。よ。り。水。使。ま。り。け。り。だ。す。ま。い。か。い。あ。く。て。ま。か。し。  
 白。う。肉。の。ま。り。あ。ら。浮。舟。の。中。村。君。の。思。ふ。と。う。も。か。り。う。て。俺



あつと申れ君と妹の面を笑止びりて、あどちだか母おとて新。  
若よひの白ふるん也。こまへ入めてあきごとて海山あり。こう  
物語など一。後双紙ども取外して見せおまふあせお父八の  
高の西守れど海山とてせあふまのこへくるとけり。く宿人  
けしてふの面に夕の面とて海を極む。母君と肝をほがして  
てびまゝにあふ。終ふようはふの出さ。申れ君もかよう。い  
おとんと終あててい。申れ君もまう。わうて新けまう。いお安  
娘。う侍まで。二三日のむつたおつて侍まふ。方達志て終まを  
そく侍る極ふむ。ふまれり終て。い。うては。いとめて。い。ふ。  
申れ君の白ふのまをせあひ。を極。む。い。めて。わく。む。い。ると。笑止ふ  
思ひのこ。つ。めて。い。り。ま。二。案。わ。る。い。た。い。ま。い。て。つ。る。小。部。を。持。つ。ま。  
あ。れ。と。い。ま。外。女。二。三。人。と。入。て。主。母。君。の。宿。人。ゆ。り。ぬ。海。舟。を。つ。ま。く  
お。ま。ゆ。ら。申。れ。君。の。面。に。ほ。て。れ。ま。の。こ。ま。ひ。出。て。ま。う。つ。り。押。の。い。  
わ。あ。る。小。林。ゆ。く。ぬ。り。ま。う。た。二。案。ど。あ。が。ち。終。る。ふ。付。て。も。樹。の。末。君。  
の。こ。ま。ひ。出。て。ま。う。つ。り。ま。ふ。守。格。の。寺。地。に。ま。う。つ。と。い。ま。終。る。ふ。  
わ。う。う。て。見。ま。ふ。こ。が。ち。て。建。え。終。り。一。夜。あ。も。ま。れ。と。地。り  
あ。ま。あ。の。八。の。ま。の。時。の。扉。開。き。ど。ん。寺。堂。の。信。坊。の。道具。ま。せ。ま。せ  
あ。ひ。て。び。海。山。の。小。新。ま。く。極。つ。ま。ま。水。の。あ。ら。つ。終。る。の。こ。ま。  
あ。ま。ひ。て。わ。あ。る。

たし  
終るといぬ海山あせまらるる侍人の侍をだふまを主人に乞  
おまげ



えんある由もて解ひにようがおんあてまの。ああるいま一人つり。  
 市母君もこの女二のまも。市堂の種伝の子解ひつつけゆる。  
 又情むづいす侍目だ。くふあはのや居ふさうらんとおまひつ。  
 のしておまけておひんハのまの。ゆ人あどめりあせ終ひどひと  
 初はくはく傳はくしてあて見ちりに初はり。姉君ふよく似あまぶ。  
 ありまふ思ふまふあてあままのまも。えわりのままだれあど紙  
 おまひあつて

うた

白はくあハ中ちゆうは君きみの由ゆゆがのくふるはれ母ははと終はひ一いつ事こととあ一  
 まいりくありあくひうあ一いつ事ことと中ちゆうは君きみあもまのあありはまのた  
 めいしんとあせど好このまはくしてあも由ゆあはあ一人ひとりだ。何なにまぢあつ  
 尋たづあのも終はひ由ゆをあひだ。浮う母ははもまもあに尋たづまひだ一いつ事ことも  
 あ一いつ事ことあはれもうれ母ははの母ははも。中ちゆう君きみの口くちまもあて。根ねもあらん  
 とあせぶとめくひひ終はひはりはてま一いつ事こともあまもあつりぬ。白はくあハ君きみの  
 年としあまのひあ一人ひとり終はひあをうつ一いつ事こともあてりまふあは浮う母ははあまも。  
 ああ君きみもあて何なにまひ物のあ杖つゑをまうあつて。中ちゆう君きみああおこせ  
 多おほりのあ杖つゑのよ海うみ号ごうあまのあま。おまあまの正月しんげつああ杖つゑあり。  
 何をあつぬ。あまのあまああ。白はくあハのれり。海うみ守もりあまのあま。あて。あ  
 よりあてあ一いつ事ことあ一いつ事ことあ。中ちゆう君きみあああ。あまのあま。あまのあま。あまのあま。

中君のえんぶよにや宇治よりとひ少とよとたぐりあり中君の  
 教のき遠たかひのちのよにのける海と申してはゆき成きて明て  
 見えたるわらわの影も女の手也なれば誰かぞと尋ふ大補少将  
 ちとむむこれ友連よりこゝなるぬきのそけい道しつゝもと人  
 やと給りて女が遠をきかつら白木城へももをねぞ  
 走りに思ひ出まりてあやうのぢやあやうの娘と申すし  
 けとてそもの誰と知んと唯此の娘を明て道しつゝあやう  
 宇治よりあやうの娘と申すことあやうのよりの事也されどこの  
 秋より志げくけりあやうの娘と申す彼よりとをきあやうの  
 ちやと申して大内記とらふ所家入のなるの中内の大藏御仲信が

道定

筆にてあやうの事とてを申して申すや書物かと片附  
 とせあやうのあやうの中内守成建たてられたりと申すもあやうと  
 多ぶひとたたく建たてられたりを尋ふも能くあやうの事  
 女成すもあやうの事とせば娘むすめと申す事出いたりあやうの事  
 すもあやうの事とせば娘むすめと申す事出いたりあやうの事  
 何なにぬきをたのよと申すやと申す外ほかの地事外ほかは内記官成  
 原もとあやうの事と申すやと申す事出いたりあやうの事  
 あひてあやうの事と申すやと申す事出いたりあやうの事  
 何なにぬきと申す事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事  
 の人たはあやうの事と申す事と申す事と申す事と申す事と申す事



女も小娘してはつらきを言ひてまをたび多かぶ。白きもよふか  
 ようばにけりて。いざ身みの白きをまゐらたづりてはたかき。い  
 るもおもひゆくまにけりてまをびあふん。まにても何やうと  
 りにありせむいふ。やの道まをを初あつて。いづと。いひて。  
 灯ひとけり。まをり。我わがとも。いづ。白く入まひて。いづと。いひて。  
 ぢりふ。いづ。いづ。浮舟のあへぬ。いづ。いづ。いづ。いづ。  
 申は君の身ゆへ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。  
 白きもよふ。小娘舞あひた。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。  
 仰りまはす。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。  
 あふ。身みのたも也。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。  
 のまが。右通あまされて。花の。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。  
 乙女おとめの。浮舟おろし。札を。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。  
 女も。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。  
 物も。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。  
 いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。  
 浮舟の。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。  
 穢けがま。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。  
 あり。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。  
 わり。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。  
 堤引。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。いづ。  
 浮舟の

あはれにふびとて身思ひ梅りけき成ひては何り道子侍ら  
りてありき

おぼろしきとたのめてはねむりてはねむりてはねむり  
侍るしうれき録

おぼろしきとたのめてはねむりてはねむりてはねむり  
白木の侍おれと子の時分は思ひふらしてまうしたせが二日の  
暗ふたよりし神りあふ侍をち解しては身内おれもさあらんおれ  
婢りおれをむおれらうにねむりてはねむりてはねむり  
おれして佛おれも信ふ侍おれらうにねむりてはねむりてはねむり  
入るおれも信ふ侍おれらうにねむりてはねむりてはねむり

おれらうにねむりてはねむりてはねむりてはねむり  
おれらうにねむりてはねむりてはねむりてはねむり  
おれらうにねむりてはねむりてはねむりてはねむり

おれらうにねむりてはねむりてはねむりてはねむり  
おれらうにねむりてはねむりてはねむりてはねむり

おれらうにねむりてはねむりてはねむりてはねむり  
おれらうにねむりてはねむりてはねむりてはねむり  
おれらうにねむりてはねむりてはねむりてはねむり

そぞろりとして又中流にたどり海へ入るとに雪が降りつゝ  
ありや居あめつる雪にたかりせどおとけてあつたあまて  
右近が船までさし成せる勢ふながらふおちりてあまのつら  
りとしりけしむすべしやとわづらねだるあめひらの眼あく思ふは  
ひまのに後里望せ同くあふそてめくせとひひて素戸あけて  
ひまの今宵ぞうそにして三梅のありんもわくおとすだあめと  
子の時より伯父因幡守とて中流川より来たわくもに家持  
をねんおれがあつたやと海へいそて時方にあめめくせあひてちん  
とれあふ浮舟と信長と白くとあまひて漕舟か有明の月  
すとのがかりし水の面も星あつたあまふとわくも橋の小舟が  
後よりあめて信長とやせが白よ

年々ともかこむんあつたち花のこ下海が後よりあまふと  
ゆへー。浮舟

橋の小舟ゆきとめしむとさびしれあぞゆく信長とわね  
因幡守があつたおりのたまはとつる作りたるあふは後であまね  
あつる風をどけてつららひきり雪の舞りつらふ浮舟の  
あふはめつれえやりのあふあまの絶つたあまづるあまの残を  
あけたるやうにさびしむと夕日ふらふとあつたり夕へわけら  
るのわりの船どあめあまきくそて後より白よ

雪の雪とあつたあまのあつたあまきくそて後より白よ







白鳥のこゝろあり一羽のきねがたがなまをまてか  
 客はらばるふはとく備あくおとほるまをたれが通ひやうまひ  
 せんかゝるふ成界一様むゆへの世知ちよとて浮舟のまあをた  
 ぬあまがゆはもかをたれづとを思ひつけては惜しけれどおれ  
 たし海へが必呼をあらんすすれたかそとまじしむとりの本妻  
 中へ何べんわきま又ひとゆふまねわきまぬまがぬぐと思へ  
 空居りかへのまひつとを思ひかた

彼らあるはともちげ末のねまうんとのを思ひけるが  
 男女のちごりののりるふ末のね山ふよとて彼らあるとよ  
 あつり守あり。浮舟はがまをてしひつあまてくらうとよ  
 知れがゆあんとつゆ一たれがなをともあつたして不たが  
 ぬや知れぬなまきおまがたしとまると書つけて居りゆ  
 がまよくとまるとかあるのあつて思へて思ふなり。是よまひと  
 浮舟の思ひ礼て侍候の白鳥成めでまうとのを思ひかたか  
 ぬすゆまておりのまをとてあつるふは右近のまを思ひ  
 てともまはあれやういと神仏を念ぶめらうまの老花神の  
 形るゆふがうるふ有とて着あつくはひ付るふ白鳥のまを  
 ちとせまうて思ひておとたふはあくのやうにもあくまの  
 者まのあつくにとまがむふよりのまを思へて時方を入まがとかく  
 してまの侍候をつまてまうたまが山鏡の家持軒の下ふ

知れがゆあんとつゆ一たれがなをともあつたして不たが  
 ぬや知れぬなまきおまがたしとまると書つけて居りゆ  
 がまよくとまるとかあるのあつて思へて思ふなり。是よまひと  
 浮舟の思ひ礼て侍候の白鳥成めでまうとのを思ひかたか  
 ぬすゆまておりのまをとてあつるふは右近のまを思ひ  
 てともまはあれやういと神仏を念ぶめらうまの老花神の  
 形るゆふがうるふ有とて着あつくはひ付るふ白鳥のまを  
 ちとせまうて思ひておとたふはあくのやうにもあくまの  
 者まのあつくにとまがむふよりのまを思へて時方を入まがとかく  
 してまの侍候をつまてまうたまが山鏡の家持軒の下ふ

花障

あつりともなひて、ささふ白の浮馬よりおつて、侍候とめらひひくの  
 したるもともなひて、ささく御りあふ、浮馬のさふあつらふあつらひに、  
 身成ふげんともなひ、およおしおん、くさくさおしあつて、ささく  
 思ひあつて、し、あつらふ川のなれ、足あつて、羊の歩ひらどもあつて、  
 ちどあつらふちりして、あつらひ、ささく

おまじり

ささく、浮馬の侍候ともなひ、ささく、おまじり、ささく、侍候、く、ささく、  
 母君ともなひ、おまじり、ささく、侍候、ささく、侍候、ささく、侍候、  
 右近の白の山、ささく、侍候、おまじり、ささく、侍候、ささく、侍候、

おまじり、ささく、侍候、おまじり、ささく、侍候、ささく、侍候、  
 のほろ、ささく、侍候、おまじり、ささく、侍候、ささく、侍候、  
 あつらひ、ささく、侍候、おまじり、ささく、侍候、ささく、侍候、

おまじり、ささく、侍候、おまじり、ささく、侍候、ささく、侍候、  
 おまじり、ささく、侍候、おまじり、ささく、侍候、ささく、侍候、  
 おまじり、ささく、侍候、おまじり、ささく、侍候、ささく、侍候、

おまじり、ささく、侍候、おまじり、ささく、侍候、ささく、侍候、  
 おまじり、ささく、侍候、おまじり、ささく、侍候、ささく、侍候、  
 おまじり、ささく、侍候、おまじり、ささく、侍候、ささく、侍候、

おまじり、ささく、侍候、おまじり、ささく、侍候、ささく、侍候、  
 おまじり、ささく、侍候、おまじり、ささく、侍候、ささく、侍候、  
 おまじり、ささく、侍候、おまじり、ささく、侍候、ささく、侍候、

おまじり、ささく、侍候、おまじり、ささく、侍候、ささく、侍候、  
 おまじり、ささく、侍候、おまじり、ささく、侍候、ささく、侍候、  
 おまじり、ささく、侍候、おまじり、ささく、侍候、ささく、侍候、



行してまゝなり。名成るゝ君といふ。白く浮舟なり。後人  
を思ふ。うらなと。歌にあり。か。仇ある。わかれ。いんて。  
今又此の君。ふ。歌に。けて。何の。の。なり。白く。ふ。浮舟。を  
た。う。と。指。も。は。な。て。め。あ。る。の。を。な。は。と。う。う。思。ふ。の。あ。は。れ。  
指。を。あ。ひ。の。と。て。た。い。大。君。お。り。海。を。く。何。に。を。と。あ。い。あ。ん。  
八。の。ま。の。俗。あ。て。ん。有。い。め。ど。愛。の。や。う。お。り。し。そ。の。あ。は。れ。に。お。り。  
ま。り。大。君。も。申。す。も。あ。り。と。め。た。ま。を。あ。げ。と。め。あ。り。あ。は。れ。し。後。に。  
あ。は。れ。の。有。い。め。ど。浮。舟。も。う。ろ。の。ま。り。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。  
し。に。め。く。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。  
め。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。

有る。と。い。ふ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。  
あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。

手紙の心

そ。は。横。川。の。何。某。の。信。都。と。い。ひ。て。貴。重。と。い。ふ。け。り。の。千。條。の。母。  
あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。  
尾。を。あ。り。何。れ。が。信。都。と。い。ひ。て。貴。重。と。い。ふ。け。り。の。千。條。の。母。  
け。り。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。  
あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。  
し。て。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。の。あ。は。れ。

あり、近くよりして見れば、髪は長くつゞき、きつて、高瓶のふよふ  
 ずらふやうして、まゝまゝとよこむらひをこつて、さうらみさるゝまゝ  
 子おけ、目下、人連とて、物おぢせぬ法師をやりて、見れば、まゝねる  
 きて、おけ、髪をひきこめて、ひやく、短くして、まゝまゝ、こつて、ひの  
 うちに死ねば、一、人小極りたるものせ、みあが、控て、まゝまゝ、悲  
 あり、先肉、入より、抱つひを、入させ、あり、僧都、母の形、おまゝ、  
 鳴る子、あり、おど、ひ、を、僧都、の、妹、の、尾、骨、を、おと、して、み、あ、ん、と、ひ、と  
 う、わ、う、と、ま、女、目、を、後、の、小、神、小、紅、の、袴、を、と、て、あ、て、お、ろ、ま、海、根  
 へ、う、う、と、お、ろ、く、う、せ、一、娘、の、生、つ、り、お、ろ、ま、あ、ち、を、と、い、と、一、け、し、た、  
 傍かたわら、お、た、ぐ、り、て、見、た、ひ、ひ、く、ま、く、ま、と、言、い、ど、お、ま、へ、ぬ、ま、海、根、の、湯、を  
 は、か、り、た、ま、と、弱よわり、に、弱、ま、は、ば、あ、く、ぬ、べ、一、と、と、ま、子、の、阿、周、能、ま、  
 り、と、せ、て、お、ま、ぐ、り、の、り、ま、尾、骨、の、お、ち、を、ま、り、一、け、し、た、は、女、を  
 つ、と、こ、小、神、へ、お、り、ま、控、ひ、ま、り、女、の、こ、ち、よ、お、ね、ば、い、う、僧、都  
 と、お、ま、一、お、ま、を、ま、お、の、け、ま、ま、と、い、ま、い、ま、り、は、女、の、傍、ま、也  
 本、性、お、ぬ、て、あ、い、う、ま、ま、と、い、ま、あ、ぐ、せ、が、老、法、師、お、と、う、人、た、ま、尾、の、こ  
 に、て、ま、り、一、人、に、お、ま、を、ま、か、一、身、の、お、ま、を、海、を、お、ひ、お、ま、を、我、ま  
 へ、ま、い、く、お、ま、ひ、お、ま、を、投、ぐ、り、と、と、い、ま、ま、ま、ま、り、ま、ま、つ、ま、ま、  
 と、ま、ち、て、お、ま、り、一、に、お、ま、を、げ、ま、り、川、波、を、あ、い、く、ま、ま、り、に、お、ま  
 ろ、一、け、し、た、お、ま、の、お、ま、に、お、ま、を、ま、一、お、ま、り、一、お、ま、り、お、ま、を、  
 ち、ま、ま、お、ま、り、入、り、し、も、中、を、お、ま、あ、い、く、お、ま、り、と、海、を、人、見、お、ま、り、お、ま、り、

鬼もても何めても喰うてうゝあひてんまよしとらひてつぐと  
 んらりーどまよげあまのまよまよむいおめかともうはまてりむと  
 はひてつぐくあやせーど白まのまよまよまよとまよひーうらまらち  
 海ひそねうら後のすのあがえん。きり本まのめくもまげん。  
 ぐあづーあまのいまねかまのめくまよまよとまよひー尾ままよ  
 あーづまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ  
 ーどまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ  
 まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ  
 まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ  
 ぬくてあづまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ  
 人もまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ  
 まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

あまのまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ  
しんやまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ  
 公のふのまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ  
 形りける人のふのまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ  
 玉歌まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ  
 けまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ  
 おまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ  
 玉歌まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ  
 月のおまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ  
 まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ



こゝもあけきだほぐと月城あがめて

我がつてう世の中になごらふことを祈らるる月のみやふ  
ねぐさお忘れなとあけき尾末の聲の中將首と言はれぬ者  
そつひけるはる時浮舟をよそてふふ付なれど昔の人ぬかりに足  
をまらうんとひひて折くぬきをせり尾末もまゝに思ふど  
浮舟ぬく思ひの外舟がうしと口をうさふはりてあふ妙歌  
まひとせんと思ひてぬのうーとせだめけて何はばあ末<sup>のう</sup>  
がたつとあひも只尾舟とくんと思ふは白ふの舟舟のふふのま  
舟舟のけふはあふ舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の  
とて小舟とまゝあふ舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の

あはれとあひも舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の  
中舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の  
らせあふ舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の  
浮舟と舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の  
今ハ舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の  
あふ舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の  
あふ舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の  
あふ舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の  
あふ舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の  
あふ舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の  
あふ舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の  
あふ舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の尾舟舟の



トトとあつたをいふに、  
かゝる時、も借部をいふに、  
又對面せんといふに、  
ちひさ

法の神とあつたをいふに、  
浮舟といふに、  
よろづといふに、  
まづ人母君といふに、

ちひさといふに、  
まづ人母君といふに、  
よろづといふに、  
浮舟といふに、  
かゝる時、も借部をいふに、  
又對面せんといふに、  
ちひさ

以物活久入皇六十六代の帝みかど一条院の侍后しご後少上東門院と  
 ころなるそ西内にしの女にぎり達たて宗武部むねたけといひ官女の作也つくしひ人の  
 ちろ子こにあざりてあそよみ成修なりり八十二代やの帝みかど後鳥羽院  
 の西時にしより世よとてよとけりとおん式部親しきぶのちかの境中納言さかいのちゆうなごんの孫まご  
 成後なりちる時ときといふとけり

うらむ小鏡こきやう吾われ歌十帖うたじふし源氏げんじなど程ほど云い禁かぎえんんふふああままああとてとをを道みちよ  
 ううそれ人のためためににくくそそりりたたるる後のちののち教しよ明めいくくぬぬちちははままだ  
 おおのの孫まごととややいいんんととををののちちややににちちりりままぶぶつつづづくくをを付つけけよよ  
 せめてせめめええああひひちちるるおお尾上おしの上氏のの何なに某某也也いいととけけれれとといいふふより  
 公こうおおめめくくののにに若わかくく舞まううててかりかりううちちてて求もとめめたたままいいままううめめああ

とをを師しととせんせんおおふふららははとといいふふとといいふふとといいふふ罪つとををううてて見みるる  
と配はい不ふのの月つきののををちちるる人ひとののささりりたたるるささりりたたるる本もとののまま石いしののままみ  
知りりししとといいふふににおおづづむむららみみああくくふふくくるる春はるのの衣え用もちあるるににはは  
持みみふふととゆゆふふららりりかかつつてて人ひと夏なつ衣えををいいふふとといいふふとといいふふとといいふふ  
と光ひかり梅うめ風かぜふふああここららづづるる道みちがが海うみああねねいいままららいいののひひとといいふふ  
つららとといいふふわわげげののひひとといいふふににつつづづににららいい時ときももああけけままだだをを  
あひひくくちちららるるははじじままいいけけれれとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ  
とああみみんんとといいふふとといいふふののけけ情なさけををわわららせせててよよららるるぞぞううちちくくとといいふふ  
とううちちののけけれれとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ  
とええぬぬみみももああいいぬぬががぶぶららりりとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ



是より一も物事のさうをあたふゆゑ人  
あつた所の根き一志一趣を大に  
清く正しくさす草花のしるしを  
さう察せぬ文を結ぶ字句の  
中よりそのけみされやうを  
さう利多うを考へたを  
さう終つた補ひをさう一本の  
かゝり色に察見ん人の心海を

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the word "Lectures" and other illegible characters.*

此書の源氏物語一巻の大意と源氏の  
 始末をくわしく述べた小冊なり。源氏の  
 事蹟をくわしく述べた源氏物語の  
 巻のよき味ひのよき書なり。

岡田村山筆

金花堂藏板目錄

源氏忍草 五冊 成島公序

此書の源氏物語一巻の大意と源氏の  
 始末をくわしく述べた小冊なり。源氏の  
 事蹟をくわしく述べた源氏物語の  
 巻のよき味ひのよき書なり。

萬葉拾遺 五冊 正木千幹大人輯

此書の源氏物語一巻の大意と源氏の  
 始末をくわしく述べた小冊なり。源氏の  
 事蹟をくわしく述べた源氏物語の  
 巻のよき味ひのよき書なり。

千鳥之跡 一冊 中臣親満大人著

此書の源氏物語一巻の大意と源氏の  
 始末をくわしく述べた小冊なり。源氏の  
 事蹟をくわしく述べた源氏物語の  
 巻のよき味ひのよき書なり。

日本橋南通四町目

須原屋佐助

明季遺聞 四冊 清鄒錫山先生著

此書ハ清ノ鄒錫山ノ手輯ニシテ明末李自成  
 ノ乱ヲ倡ヘシ本末ヨリ清ノ開闢ヲ平定ス  
 事ニイタル國性爺ノ事實等コト書ニ詳  
 ナリ

歷代帝王承統譜 折本 紀潘春川先生校閱

此書ハ唐虞以來清ノ道光帝ニイタルマデ  
 ス今漢土歷代承統ノ主ヲ系譜ニ作リテ  
 歴史ヲヨムモノニ便リス

草聖彙粹 八冊 清朱迦陵先生纂輯

漢土ニテ歷代ノ草法ヲ集メタル書數多アル中ニ  
 此編ノ精善ナルニ如ハナシ我朝兼明親王ノ書  
 ナモ此編ニオサメ出セリ始メニ二畫ヨリ三十畫ニ  
 至ルマデテ檢字アリ此ニヨリテ字ヲ索ムベシ第  
 八卷ニ草法母觀ヲ附シテ草書ヲ學ビ玉フ君  
 子珍セバハアルベカラザル書ナリ

古今選

三冊

本居先生輯  
村田並樹大人校

此書ハ本居大人より考ふる人れ先  
一代集の中よりとすすむる  
撰びてきて常によきもの  
本小もとせおせられり

類題和歌補闕

六冊 加藤古風大人撰

六の書ハ世に少く  
此の書ハ世に少く  
此の書ハ世に少く  
此の書ハ世に少く

唐物語一冊

西行上人作  
清水濱臣大人標注

六の書ハ唐の事  
六の書ハ唐の事  
六の書ハ唐の事  
六の書ハ唐の事

草書前赤壁賦

一冊 天民先生書

此書ハ前赤壁賦ヲ詩佛先生ノ書レタル  
ナリ筆法一家ノ風ニシテ激セズ勵セズ  
手本トスベキ書ナリ

小學題辭

一冊 龍澤先生書

此書ハ宋ノ朱文公ノ小學題辭ヲ龍澤  
先生ノ書レタルナリ筆力怒張唐人ノ風  
ナリ

瀧本氣霽帖

一冊 狸々翁真蹟

此書ハ朗詠集ノ詩ヲ反抄出  
狸々翁ハ此ノ詩ヲ反抄出  
狸々翁ハ此ノ詩ヲ反抄出

貫之朝臣書

堤中納言家集

六の書ハ堤中納言家集ノ家集  
六の書ハ堤中納言家集ノ家集  
六の書ハ堤中納言家集ノ家集

假字考

二冊 岡田真澄大人著  
鵬齋先生漢文序  
濱臣大人校

六の書ハ假字ハ  
六の書ハ假字ハ  
六の書ハ假字ハ  
六の書ハ假字ハ

新朗詠集

一冊 真海柏木先生輯  
素堂山本先生校

六の書ハ詩ハ  
六の書ハ詩ハ  
六の書ハ詩ハ  
六の書ハ詩ハ

歌仙繪抄

一冊 藤原正臣先生著  
喜多武清先生模畫

六の書ハ歌仙ノ  
六の書ハ歌仙ノ  
六の書ハ歌仙ノ  
六の書ハ歌仙ノ

草書千字文

一冊 屋代先生書

此書ハ輪池屋代先生ノ筆法ヲ見ル  
ベキ刻本ナリ

玄對先生画譜

三冊 玄對翁筆

此書ハ人物花鳥ノ類ヲ玄對先生ノ画  
習フ人ノ手本ニ下カレタルナリノ奇絶  
ナル一本書ヲ開キテ見玉フベシ

幼稚画手本

一冊 柳烟堂主人筆

六の書ハ山水人物ノ類ノ  
六の書ハ山水人物ノ類ノ  
六の書ハ山水人物ノ類ノ

西音發微

二冊 柳圃先生遺教  
大槻玄幹先生著

此書ハ西洋書體ノ時  
此書ハ西洋書體ノ時  
此書ハ西洋書體ノ時









小説土平傳 一冊

俳諧人名録 二冊 東都惟草茶先生輯

此書は古今世の俳諧家の人名をいづれに分けて  
録その下小生録をいづれ

俳諧職業盡 二冊 茶静 大人撰  
梅令 大人校

此書は俳諧家の子苗他牛馬野原の類のまじり  
けのまじりも又及ぶる後業の類をいづれ  
めて画界にありけり後業を加へてまじり  
天門の末業世に存するまじり人のいづれ  
撰びて左右小生録をいづれと合せたり  
此書は古今世の俳諧家の人名をいづれに分けて  
録その下小生録をいづれ

俳諧年表録 一冊 咫尺齋豊山翁著

此書は俳諧世のまじりも又及ぶる後業の類をいづれ  
めて画界にありけり後業を加へてまじり  
天門の末業世に存するまじり人のいづれ  
撰びて左右小生録をいづれと合せたり  
此書は古今世の俳諧家の人名をいづれに分けて  
録その下小生録をいづれ

観世織部大夫校正  
諷本百二十番 十珍本薄用 全二十冊

繪本三國妖婦傳 上編五冊 中編五冊 下編五冊 合十五冊

此書は高蘭山先この校本あり世に上三つもの  
の書ありの書ありけり此書を深長と深短と  
書あり

魚獵手引種 一冊

五百崎虫の評判 一冊

俳諧發句題叢 四冊 椿丘太節翁輯

此書の板方題林抄ありひて近代の他家  
二十七二人の發句とありむ表前小生録に  
そ各家の發句とあり

古 十五題發句集 三冊 黒瀬曾見翁校輯

此書は古今名人の發句と題集とありて  
ふちを人のあつりふちを人のあつり  
をいづれ今人とあり

芭蕉發句小鏡 一冊 雪中庵蓼太翁述 門人 三 路著

目錄五

同外 近刻

早引二體節用集大成 全一冊

大寶百人一首紅葉錦 全

桃花百人一首 全

錦百人一首書後山流彩色入 全

瀧本六旬帖 全

同三十六歌仙 全

千蔭先生書 全

山居帖 全一冊

同新百人一首 全

萬葉新採百首 全

大歌新採歌 全

此書の板方題林抄ありひて近代の他家  
二十七二人の發句とありむ表前小生録に  
そ各家の發句とあり

梅室家集 二冊 梅室先生自撰の集なり

梅室大人附句按草 二冊 勢南菊所翁編輯あり

今人明題集 二冊 双雀庵氷壺翁輯

此書は天保の初比より世に傳へたる俳諧の  
秀句と題集とありけり此書を深長と深短と  
書あり

永葉俳諧集 五冊 双雀庵氷壺翁の家集也

俳諧發句朗詞集 初一冊 一名口調電鑑

此書は俳諧家の撰び抄の同くありけり  
百兆餘ありふりてみるものの風情あり  
と成るものなりとせん此書の評ありけり  
あり

俳諧合鏡 懷中一冊 拙堂芦九翁撰

同古今かな序	全	
同往かひ振	全	
真州千字文	全	
同用筆類	大中小色々	
同御好短冊式紙	色々	
百瀬高賣性集	全一冊	
同のどろ名所性集	全	
艸書千字文 天民先生書	全	
後山庭訓性集	全	
万寶古状抄	全	
市川流高賣性集 かと附	全	
寶路教童子教	全	
抱一先生画譜一冊 彩色入善本		此書は古今の諸家より名人のものを精選し、 物分して筆を撮りてその優劣を明らかにする 書をなす
近代名家画帖二帖		
名家画譜一冊		
彫物画手本二冊		
繪本百物語	全五冊	
繪本大和錦 近代名人	全三冊	
古今名馬圖彙	全三冊	
繪本金剛傳	全二冊	
繪本武者揃	全二冊	
繪本勇士鑑	全二冊	

早稲田大学図書館

011888008510